

英国の鉄道事情 The Gravy Train

私にとっての休日の楽しみといえば、東京の有楽町駅に面した屋上庭園に座って缶入りのホットロイヤルミルクティーを飲みながら新幹線が行き来するのを眺めること。新幹線が、私よりも歴史が長く驚異的な工業技術であるにも関わらず、今もエレガントで美しいモダンな外観をとどめているのは信じがたいことです。

英国人と日本人は共に鉄道好きといえるのではないのでしょうか。英国は、新幹線のぞみのような人々を驚嘆させる列車を作り上げることはできませんでしたが、英国の鉄道は、今日、英国のあるべき姿を方向付け、旅行者にも英国内のロマンティックで思い出に残る美しい場所を訪れる手段を提供してきました。今回は、そんな英国の鉄道に関する情報と英語のフレーズをご紹介します。

ロンドンをはじめ、英国の主要都市には訪問する価値のある有名な駅が沢山あります。セントパンクラス国際駅は、完成当時世界で最長だったアーチスパンの鉄骨建築とガラス屋根の天井を持つプラットフォームで有名です。駅の保存活動に貢献した詩人ジョン・ベッチェマン(ブリティッシュ・カウンシルでも働いていた経歴有)の銅像も駅を見つめています。巨大なキングズクロス駅の下には、ローマ帝国の侵略に対して蜂起をリードしたクイーン・ブーティカが埋葬されているという言い伝えがあり、彼女の幽霊の目撃談も…。また、この駅が、ファンタジー小説・映画「ハリー・ポッター」で、彼の幻想的な冒険への出発点となったことは有名な話です。9-3/4 番線プラットフォームのサインが壁のなかへ消えていったショッピングカートとともに立てられています。その他にも、映画ファンであれば、「ミッション:インポッシブル」でトムクルーズが訪れたリバプールストリート駅や、「トレインスポッティング」で目玉になったスコットランドのウエスト・ハイランド線コロー駅もおススメです。

英国の鉄道の旅ベストを決めるのは長い論議を巻き起こすことになりませんが、ロンドンから北スコットランドへ 13 時間に渡って英国の美しい景色を背景に移動する寝台列車カレドニアンスリーパーは有力候補です。最近では、スコットランドのハイランド地方を通る路線ウエスト・ハイランド線が、Wanderlust Magazine 誌の読者に、選考過程で 400 以上の候補鉄道路線を打ち破って世界の最も景色の良い鉄道の旅に選ばれてもいます。

英国で最初の観光路線である、ロンドンから Brighton への鉄道の旅も有名です。カップルが多く利用したことで悪い評判もありますが…。伝統愛好者であれば、ヨークシャーのキースリー&ワースバレー鉄道を始めとした英国の保存蒸気機関車の旅をお勧めするでしょう。

英国人の鉄道好きから、鉄道に関連した様々な言葉や表現が生れています。鉄道愛好者は、`anoraks` という防寒用フード付きコートを着て駅のホームの端でぶらぶらしながらエンジンの番号を書きとめている姿から、`anoraks(アノラック)` と表現されます。

`on track` は「順調に進んで」という意味。

`Things are on track and we should finish by Christmas` 物事は順調に進んで、クリスマスまでには終わるでしょう。

`off the rails` は「軌道から外れる」という意味。

`He went off the rails after he lost his job.` 彼は仕事を失ってから何もかもうまくいかなかった。

`(to ride) the gravy train` は「楽をして大金を得る」という意味。この表現は政治家に対して度々使われてきましたが、最近は特に頻繁に使われます。

'All those government ministers are just riding the gravy train! They do nothing and claim a fortune in expenses!'

閣僚は樂をして大金を得ようとしている。何もせずに経費で財産を得ようとしている。

次回の英国旅行の際には、数年前に英国鉄道の広告 'letting the train take the strain' にならって、鉄道の旅を試してみませんか？ 時間はかかりますが、経験は価値あるものになるでしょう。（足元も広いですし。）

PS. 最後に、冬が近づいてきていますので、アノラック(防寒用フード付きジャケット)をお忘れなく！

英国政府観光庁Webサイト

<http://www.visitbritain.jp/travel-and-transport/travel-around-britain/rail-train/index.aspx>

Written by Philip Patrick
Copyright © British Council, All right Reserved.